

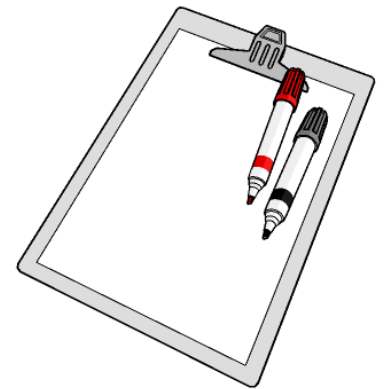
ちょうかくしょうがい かた ～聴覚障害のある方～

さいがい お さいがいはっせいじ しょうがい かた おお せいかく
災害はいつ起こるかわかりません。災害発生時には、障害のある方の多くは正確
な情報収集や自力での避難が困難なため、大きな被害を受ける可能性が高くなる
ことが想定されます。

ひ そな じゅうぶん おこな じぶん いのち じぶん まも かんてん
日ごろの備えを十分に行うことは、「自分の命は自分で守る」という観点から
とても大切なことです。

1. ひなん とき もの 1. 避難する時の持ち物

- ◎補聴器や人工内耳などの電池
- ◎スマートフォンなど文字情報が得られる携帯端末
- ◎バッテリーや充電器（予備も）
- ◎筆談用具（ホワイトボード、メモ用紙、筆記用具など）
- ◎懐中電灯（暗い場所でも手話や文字が見えるように）
- ◎障害者手帳やお薬手帳



2. 普段からの備え

- ◎補聴器、スマートフォンなど、自分が情報を得るために必要なものは、常に身近な場所に置きましょう。
- ◎通信の遮断が起きたり、機器が破損する場合も考えられます。できれば情報にアクセスする手段・ツールは複数確保しておきましょう。
- ◎家具は固定し、ガラスには飛散防止フィルムを貼っておきましょう。
- ◎非常用持ち出し袋を用意しておきましょう。



3. さいがい お 3. 災害が起きたら

- ◎テレビの文字放送、スマートフォンなどで、情報の把握に努めましょう。
- ◎動けなくなった場合、笛や携帯用ブザーなどで居場所を知らせ、助けを求めましょう。
- ◎周囲の人に聴覚障害があることを伝え、安全な場所への誘導や、必要な配慮をしてもらいましょう。
- ◎避難所での放送や説明がわからなかったら、担当者に聞いて、文字や絵で教えてもらいましょう。